

道徳指導案 5年

5年1組 35名

担任 佐藤広也

単元名 ともに生きる世界を

主価値 国際理解と郷土愛

学習材

- ・「ともに生きる世界を」 「考える道徳5年」(日本標準)より
- ・北海道開拓記念館展示資料より 映像 音声
- ・ユネスコ文化遺産のアイヌ古式舞踊の紹介新聞記事
- ・「心のノート 共に生きる世界を」
- ・アイヌ民族その歴史と未来 アイヌ文化振興機構
- ・文科省のユネスコ世界遺産登録一覧表のインターネット配信映像 雅楽に始まりアイヌ古式舞踊で終わる

これから聞いてもらう音は何だろう 全部聞くと14分あります
(北海道開拓記念館展示資料 授業者録音)

メモの短冊用紙を配布

- ・わかりそうな音、聞いたことがある音をメモしてみよう
- ・耳を澄まそう
- ・何か気のついたこと、不思議はないかな

黒板に貼っていく

どうやって14分もお話を覚えたのかな。

アイヌのお話だね ユーカラは知っているね
この話は14分ありますが、今日はこれを語っている人の物語を読んで考えます

『共に生きる世界を』資料を読む

資料を読んで思ったことをカードに書こう

- ・どんな苦労があったのだろうか？
- ・伝承をアイヌ語で残したのはなぜだろう？
- ・今はどうだろうか？
- ・北海道だから、 だから、という差別はないだろうか。
- ・自分がされたいやなことを他人にはいけない。
- ・小さな自分の世界からまず始めていくこと。
- ・そして社会全体を作っていく先頭にたつということ。

このアイヌが大事にしてきた文化の中で、アイヌ古式舞踊は、この間みんなが調べてきたユネスコの世界文化遺産に登録されました。

- ・すばらしい、びっくり。
- ・その踊りを一つでも知っていることは、世界遺産を踊れるということです。みんなが世界に向けてじまんでできること。

その文化を学んでいくことも、日本や北海道にすんでいる私たちの未来への責任ですね。ともに生きる世界を築くためには、お互いが認め合うこと、知ることから始まりますね。

知里幸恵さんも、この白沢ナベさんも味わったつらい思いを乗り越えていくためにどんなことが可能でしょうね。あなたやみんなができることを考えてみましょう。カードに書いてみましょう。

社会科の時間での学習

教科書には「世界遺産」で自然遺産が出てくるが、あわせて文化遺産、複合遺産を調べて、新聞にし発表。クイズ大会とする。

「沖縄の発表会で、複合遺産が出てきた。」の声。

35人中で、世界遺産の中から、アイヌ古式舞踊を探したものや選択したものはいなかった。

タージマハール、マチュピチュ遺跡、ブルージェ、ピラミッド、自由の女神、白神山地、屋久杉、知床、万里の長城、ピサの斜塔、ナスカの地上絵などはあった。

世界遺産をきっかけにアイヌ文化を学ぶ展開はできそうである。

そこで文科省の動画を見せて 2009 年に登録されたものをダイジェストにしたものを見せた。いわゆる郷土芸能というものへの関わりがきわめてすくない。

2009 年に日本から登録された 13 の文化遺産を見せた。最後はアイヌ古式舞踊であり、弓の踊りと、子どもたちもピリカコタンで踊り、アイヌ文化振興機構のテキストに載っている「バツキウボボ」の登場でどよめいた。

「こんなのが世界遺産ならなんでも世界遺産。」

「こんなのが！と思った。でも深い意味があるんだろうと思う。」

「むずかしくてわかんなかった。」

「こういうおもしろい名前の世界遺産にびっくり。」

「アイヌの踊りがそうだとは思わなかった。」

「すべて伝統的だった。」

「伝統があるのは確かだと思った。」

「不思議な感じがした。」

「いろんな世界遺産がなにをやっているのかはぜんぜんわかりません。だけどなにかは伝わりそうです。」